

# 歴史探訪



文化生涯学習課 ☎ 23局3635  
FAX 22局3811

## パワースポットを探せ 役行者の像

前からずっと気になっていたことがありました。それは役行者えんぎょくしゃの石造物いしぞうぶつの存在です。役行者は、古代の呪術者じゆじゆつしやで、修験道しゆげんどうの開祖としてあげられています。実在の人物ですが、その人物像はのちの伝説によるところが大きいです。

修験道とは大自然そのものを神とし、靈山に登り修行をつみ、その得た呪力きそりきを持って祈禱きたうを行い人々を救う、極めて実践的な宗教といえます。渥美半島の山は修行に適した険し

いものとはいえませんが、蔵王山や滝頭山、雨乞山などは靈山の対象や修行の場になっていたことが想像されます。蔵王山には行者岩と呼ばれる岩、蔵王権現、熊野社、滝頭山には行場としての滝や不動さん、雨乞山の西側には山田の泉福寺のような山寺などの存在があります。

田原市においては、山岳の修験道の象徴としての役行者の像が太平洋岸に広く分布しています。石神町の観音堂、折立町の神明宮、吉胡町の地域密着型複合福祉施設・田原ゆの里、高松町大日庵、大草町本郷神社・半身神明社、東神戸の天友寺などに



●高松町大日庵の役行者

祀まつられています。特に吉胡町のもものは大岩の上に安置され、お祭りも開かれており、昔から信仰の対象となっていました。渥美半島では修験道の霊場である奈良県の大峯山に参拝する講が残っている地区もあり、百々神社には明治33年、大峯山に33度登山を行った記念碑が残っています。

役行者にこだわる理由は、①古代から中世の寺院が修験道の霊地につくられる場合が多い②霊地は人々の記憶に刻み込まれる③そして修験道の開祖である役行者の像が祀られた、という流れがあると考えられるためです。いわゆる役行者ゆかりの地は、

強力なパワースポットともいえるのです。役行者の姿は、ひげをたくわえた老人で、岩に座り、ずきんを被り、すねをあらわにした足は一本歯の高下駄を履いて、右手に巻物、左

手に錫杖しやくじやうを持ちます。この独特の姿から他の石仏やお地藏さんとはすぐに見分けが付き



●折立町神明宮の役行者

ます。役行者の像は、多くの人の信仰を集め、祀られていたはずですが、いつの間にか忘れられ、近くにある寺社に移されたものが多く見られます。

(増山)

## 今月の「表紙」

▼3頁に投稿いただいた「食改さんや」ページ「渥美」さんが考案したレシピは、栄養満点!!市ホームページのトップ右側「クックパッド」をクリックしてください。田原の食材を使ったレシピが写真付きで解説されています。ぜひお試しを。

【表紙の写真】食生活改善推進員とページ「渥美」による健康を考えた冬のレシピ